

タイトル：2020 年度教育セミナー（第 16 回）

日時：2020 年 9 月 17 日（木）～20 日（日）

オンライン開催

「中国回族のアイデンティティ意識とウンマ観念」

何 家 歆（京都大学大学院総合生存学館 一貫制博士課程 2 年）

中東イスラーム教育セミナーに応募しようと思ったきっかけは、中国ムスリム学会からの宣伝であった。主に中国のムスリム民族、または中国で変容したイスラームを研究している私は、「イスラームの中核」となる中東の国々に非常に興味を抱いているが、その繋がり糸口をなかなか見つけられない。故に自分はたとえ応募しても、セミナーの内容、講師の講義や受講生の発表をうまく理解できるのかと不安になり、躊躇していた。そこで宣伝チラシを見ると、昔からお話を伺いたい、中国ムスリムを研究されている奈良雅史先生もいらっしゃるので、セミナーの参加に決心した。そして、セミナー中、初日のオンライン懇親会の際でも、自分の発表の際でも、先生の講義の後の質疑応答でも、有益なご意見をたくさんいただいた。個人的には、今回のセミナーはまるで人生のターニングポイントのようで、大きな収穫ができた。

私の在籍する研究科は、学生それぞれの分野やテーマがあり、かつ文系の研究は非常に少ないともいえる。イスラームどころか、地域研究や人類学などさえも話せる教官や相手がほとんどいない。今回の中東イスラーム教育セミナーに参加させてもらって、受講生の一人がちょうど今読んでいる学術書を推薦してくださって、泣くほど感動したことが特に記憶に残った。これこそが同じ分野、同じバックグラウンドの持つ学生を集まる研究室の雰囲気なのだと感じた。また、今まで自分の研究には何か足りないところがあると認識していたが、自力でどうしても見つからずにそのままになっていた。セミナーで発表させてもらったおかげで、問題の源は両分野、両ディシプリンを知らないうちに跨いでいることに初めて気づいた。この点は、修士論文の執筆にも参考になり、今後の研究の方向を確定するためにも大きな意義を持つと、心から感謝している。

また、自分の研究の全貌を日本語で発表するのは初めてなので、非常に緊張もした。にもかかわらず、英語より自分の考えたことをしっかり説明できた気もあり、先生方や受講生の皆様も理解したようで、大変安心した。さらに先生方の講義、受講生のご発表を拝聴し、内容は言うまでもなく、正しい表現、分かりやすい、伝えやすい表現についても勉強になった。

最後に、やはりオンラインセミナーには参加しやすさという便利な一面があることを認めるが、コロナにより先生方と受講生の皆様にお会いすること、お食事しながらの意見交換

などもできなくて、少し残念に思った。それでも、イスラームや中東に関連する研究をなされる皆様が集まれる場、かつ院生の私たちに貴重な意見をくださる場を設けていただき、全く感激の極みであった。来年は当面開催であれば是非ともまた受講させてもらいたく、また博士論文を執筆する際には是非とも姉妹セミナーの中東イスラーム研究ミナーに参加したい。